

金太郎温泉

化石海水の湯 —金太郎温泉—

国道8号線の片貝川の東に金太郎温泉があります。この金太郎温泉は、岩稲累層の上に堆積した地層中に含まれる化石海水（古い時代の海水が地熱によって温泉化したものです。源泉の温度は75度とされています。富山県が発行した資料（1982）によれば、金太郎温泉1号井は地下770m、同2号井は地下1020mまで掘削し、自噴する化石海水を取り出したものです。営業を開始した直後の昭和40年頃の湯は、硫化鉄を含んでいたため褐色～黒褐色でしたが、現在ではほぼ透明になっています。

温泉の成分には、ナトリウムやカルシウムなど海水起源の塩化物が多く含まれています。Mg²⁺とCa²⁺は岩石と水の反応によって海水中の濃度とは変化しています。また、温泉特有の硫化水素臭は、溶け出した硫酸塩の一部が硫酸還元細菌の働きによって還元を受け硫化水素に変化することで生まれます。富山県内の温泉で金太郎温泉と同じ起源を持つのは、明日温泉、宮島温泉、華山温泉、法林寺温泉、福光温泉などがあります。これらの温泉は、大地の変化と生物の働きによって生まれたものです。

宇奈月温泉は全く成因が異なり、花崗岩中の破碎帯に地下水が温められた熱水溜まりができこれが噴出したものです。熱水溜まり中の源泉の温度は150～200℃にも及びます。このタイプの温泉には、黒薙温泉や祖母谷温泉、みくりが池温泉、地獄谷などがあります。現在の角川ダム付近の左岸では、昭和40年代初頭までこの凝灰岩が採取され、家の礎石や石垣、囲炉裏を囲む石として利用されていました。現在では、採取場跡地はダム建設の際に埋め立てられ、殆ど見ることはできません。